

## 2010年禁止表 Q&A

### 2010年禁止表では、2009年と比べどのような主要な変更がなされましたか？

禁止表は最新の科学進歩を反映しました。2010年に施行する変更のいくつかは、ドーピング防止機関が数多くの物質や方法をより管理しやすく、効率的に処理できるようにしています。特に以下の薬物に関する点です。

#### ・サルブタモール

数年に亘り、各関係者からの利用可能なあらゆる情報を検討、考慮した結果、WADA禁止表委員会は、ベータ2作用薬サルブタモールの位置づけ(2009年禁止表では特定物質として記載)の変更を提言しました。過去数年に亘って、サルブタモールが検出された事例のほとんどは、治療目的使用に係る除外措置の対象でした。

2010年禁止表ではサルブタモール吸入剤の治療使用は禁止されず、従って、治療目的使用に係る除外措置(TUE)の書類申請も求められません。しかし、監視目的として、サルブタモール吸入剤を使用している競技者は検査時に公式記録書に使用の申告が求められます。

サルブタモールは、尿中濃度が1000 ng/mLを越える場合は禁止です。その場合は、サルブタモールが吸入投与されたのではないとみなされ、競技者は管理された薬物動態研究を通して、その異常値が治療量の吸入使用の結果であることを立証する責任があります。

#### ・蛋白同化男性化ステロイド薬

蛋白同化薬に関する分析結果の取り扱いについての詳細な技術解説は、今回、禁止物質の検出に関する最小限要求される作業レベル(MRPL)についての技術に関するWADA文書改訂版に移動しました。

テストステロン/エピテストステロン(T/E)比が4を超え、かつ同位体比質量分析法(IRMS)あるいは信頼できる分析方法によっても外因性の禁止物質である事実が明らかにされない場合は、それ以上の検体採取あるいは分析は必要がなくなります。

### その他、どのような際だった変更が2010年禁止表ではなされていますか？

#### ・プソイドエフェドリン

プソイドエフェドリンは禁止表へ再導入されます。

2003年まで、プソイドエフェドリンは競技において禁止されていました。2004年からは毎年、プソイドエフェドリンはWADA監視プログラムに掲載されていました。(監視プログラムには、競技において禁止されてはいませんが、悪用パターンを検出するためにドーピング防止分析機関によって監視している物質が含まれています。)

過去5年に亘る監視プログラムの結果から、プソイドエフェドリンを含む検体は上昇し続けています。監視プログラムから、多くの競技と地域において、高濃度のこの薬物の明らかな乱用が示されています。加えて、利用可能な文献から、一定の濃度以上においてプソイドエフェドリンが運動能力向上効果を示す科学的事実が報告されています。

監視プログラムの結果、文献、およびWADAが実施した、管理された排泄試験の結果に基づいて、150 µg/mLを越えるプソイドエフェドリンは禁止されます。

・**酸素**

2010 年禁止表では、酸素自体の補給(高濃度酸素)は禁止されないことが明確にされています。

・**血小板由来製剤**

血小板由来製剤(血小板濃縮血漿、“血液スピニング”等)の位置づけが明確にされています。これら製剤の筋肉内投与は、禁止となります。他の経路によって投与される場合は、治療目的使用に係る除外措置に関する国際基準に従って使用の申告が必要となります。

**シルденаフィル(バイアグラ)の扱いはどうなっていますか？**

シルденаフィル(バイアグラ)は禁止表に掲載されていません。

WADA は、シルденаフィルが高度の非常に高い状況では肺機能を回復させる能力を有するという研究結果を把握しています。WADA は様々な高度におけるシルденаフィルの効果に関する多くの研究計画に資金提供をしており、これらの研究は現在進行中です。